

## 北部ブロック 2021 年度短期計画（目標）の振り返り

コロナのため、以下の通り 2020 年度の目標を今年度も継続して採用しました。

北部では、ベトナム人・フィリピン人が多く集まる小教区は福知山教会です。

- 
- ① 教皇様のメッセージを深め、伝えていきます
  - ② 外国の方々と力を合わせて、共同体づくりを進めます
  - ③ 外国の方々との交流の場を計画実行します
  - ④ 弱い立場の人々に寄り添う活動を進めます
  - ⑤ 各小教区間で交流を進めます
- 

全体として、コロナ陽性者の増加により中止となった主日ミサが多かったため、上記目標（計画）の達成度は低調でした。

- ①・主日ミサで、ネット配信された教皇ミサの説教を紹介することがしばしばありました。  
（4 教会共通）
  - ・毎週水曜日、宮津と網野で「聖書を読む会」を行っていますが、度々教皇メッセージを分かち合っています。（丹後）
- ②・主日ミサには、フィリピン人やベトナム人が主体として主日ミサの侍者をやってくださっている。（福知山）
  - ・例年、北部では、福知山教会で 4 回のベトナム語のミサを行っていたが、今年は 10 月 1 回のみベトナム語ミサとなった。（ブロックの取り組みとして）
  - ・西舞鶴では 3 人のベトナム人青年がミサに参加し始めました。（西舞鶴）
  - ・日本人とベトナム人の結婚がきっかけとなり、教会共同体に新しい風吹き始めるか、というところ（丹後）
- ③・福知山教会では、今年はベトナムの青年たちが馬小屋造りをしてくださり、国際ファミリー・デーのイベントや聖母行列でも、ベトナム人やフィリピン人が主な役割を果たしてくださった。（福知山）
  - ・フィリピン人が対象ですが、出来るだけ小教区に入籍するよう呼びかけています。（ブロックの取り組みとして）
- ④・ホームレスの方々のため、アルミ缶を収集し奈良の施設に運んでいる。（福知山）
  - ・外国人労働者のため、収穫期に自分の田圃で作った米を提供している。（東舞鶴）
  - ・釜ヶ崎などへ米その他の生活物品を送っている。（西舞鶴）
- ⑤については、コロナのため、十分な取り組みはできませんでした。

以上

## 2021年度洛東ブロック年間計画 振り返り

10月23日洛東ブロック会議での振り返り

1. 「すべてのいのちを守るため」をテーマに、四旬節黙想会、平和旬間行事(ミサと学習)を行う。	
振り返り	四旬節合同黙想会は実施。平和旬間は各小教区での取り組みとし、取り組んだ。
	河原町 8月8日平和祈願ミサでは平和の意向の共同祈願を入れた。また、カトリック正義と平和協議会(正平協)「写真展」が行われた。
	伏見 担当教会として2月21日洛東ブロック合同四旬節黙想会を実施。中川神父様、菅原神父様を招き、ミサなし、テーマ「わたしは、あなたたちの苦しみをつぶさに見、叫びを聞いた。(出エジプト記3.7)」によるご講話と黙想会、聖体顕示・赦しの秘跡を行った。参加者107名(うち伏見教会67名)。
	桃山 8月8日平和祈願ミサに際しては、特にイベントは行わず、共同祈願での平和祈願のみとし、8月15日聖母の被昇天に際しては、例年ミサ前に行っていた「生きたロザリオ」は中止とした。
	山科 平和旬間の取り組みとして、日曜学校でロザリオの祈り。聖母の被昇天(8/15)のミサ前に、世界平和と日本の平和の継続のため、塔鐘の鐘を鳴らし黙祷を捧げた。
2. 子どもとともにささげるミサ、中高生・青年の集い、テゼの祈りを行う。	
振り返り	子どもとともにささげるミサは中止、中高生・青年の集いはzoomによるオンライン開催、テゼの祈りはできなかった。
	河原町 10月22日中高生の集いに1名参加。
	伏見 10月22日中高生の集いに2名参加。
	桃山
	山科 担当教会として菅原神父様にご指導をお願いし、10月22日21:00～Zoomによるオンラインで開催した。テーマは「コロナ禍で気づいたイエスさまとのつながり」。参加者は河原町1名、伏見2名、山科2名。11月14日、七五三のお祝いに合わせ、子どもとともにささげるミサとして、子供達が朗読と共同祈願の奉仕を行った。
3. 「病者の日」(ミサ)、「エコロジーと防災の日」(ミサと学習)、国際交流ミサを行う。	
振り返り	病者の日のミサは共同祈願を集約し各小教区での開催とした。「エコロジーと防災の日」については、一部小教区で防災の観点から避難訓練・確認を行った。なお、2022年以降は「エコロジー」と「防災の日」は一緒にせず別々に考えることを確認した。国際交流ミサについても、感染防止の観点から企画しなかった。
	河原町 10月17日非常口確認と訓練を実施した。10月24日病者のミサを実施、祈願者の名簿を作成した。
	伏見 担当教会として病者のミサの次第を担当、各小教区からの共同祈願を集約した。10月31日病者のミサを行った。
	桃山 10月24日病者の日のミサを実施。11月24日避難訓練を実施した。
	山科 9月5日非常口と避難経路の確認を実施。10月31日病者のミサを実施。また使途的勧告『愛するアマゾン』読書会を行った。
4. 「いのち・平和・環境」の集い(分かち合い)を行う。	
振り返り	4月度洛東ブロック会議において本年度は感染予防の観点から中止、落ち着いたら再提案することとしたため実績なし。
<p><b>総評</b></p> <p>コロナ禍で感染防止対策・行動制限がある中、可能な範囲で活動を行った。状況の好転を祈りつつ、次年度の活動に繋げてゆきたい。2022年の年間計画については2022年1月のブロック会議で討議して決定する。なお、「エコロジーと防災の日」(ミサと学習)については、瀧野神父様より「「エコロジー」と「防災の日」は、一緒にしないで、別々に考えるべき」とのお考えが示され、一致した。</p>	

桂

（1）日本の教会の使命「日本で生きるすべての人々のあり方、命に係わる現代の複雑な諸問題への取り組みに福音的な光を投げかけること

【計画】

① この世に生あるすべての人類には、平和を希求する権利と義務があり、そこには国境も人種間での争いも存在してはなりません。そのため、神の教えを受ける私たち信者一人一人が個々人の命の尊厳を自覚し、すべての命を守ることに努めます。具体的には、初めて教会を訪れるすべての人を信仰の仲間として温かくもてなし交流を深めます。

② すべて平等な命を授かった貧しい人、弱者・病者の方々に寄り添い積極的な対話、弱者・病者訪問を行っていきます。コロナ禍で人と人との交流が制限されるなか、祈りによる弱者・病者の方への心の寄り添い、外国からの就労の方々への寄り添いや祈りによる仲間意識を醸成します。

【振り返り】桂教会短期計画の総論として、コロナ禍想定での短期計画ではあったが、計画そのものが少し過大でありかつ、今年度の約半数の6ヶ月間がコロナによるミサ等休止期間であったことから実践できなかったことは否めない。しかし計画そのものの「各人々の命の尊厳」「初めての教会訪問者への温かい寄り添い」は、キリスト者としての私たちが常時持つべき心構えであるので、引き続き啓もうを図る。

（2）「あらゆるものは繋がっている」子供たち及び青少年の育成支援を強化

① 教会を訪れる青少年信者の減少に伴い、ブロック内教育部との連携を図り、ブロック単位・教区単位での青少年行事に積極的に参加できるよう、保護者への話しかけや活動補助を行っていきます。

② 幼児洗礼を受けた親御の方々に子息の教会行事等々への参加や係わりを促し、青少年にとって集いやすい教会作りを目指します。

【振り返り】教会を訪れる青少年の減少は否めない事実である。このことから幼児洗礼等を受け、青少年に達している子を持つ親御さんたちへの啓もうは引き続き図って行く。

（3）社会に奉仕する教会共同体（正義と愛と連携の実践）

【計画】

① コロナ禍にあって、人々の不安や恐怖により偏見や差別が広がることをないよう新型コロナを正しく恐れ、すべての命を守るために社会の中での連携と思いやりを持ち、これまで以上に信者間地域住民との連携を深め最も傷つきやすい人々に寄り添います。

【振り返り】すべての命を守るための社会の中での連携や、今まで以上の信者間の連携などについて、ミサが休止されたことや、高齢化等によりスマホ・パソコンでのメールが扱えない信者さんへの連絡方法が大きな問題として浮上した。今後ウィズコロナとの共存の中でこれらの信者さんへの連絡方法等を如何にして確保して行くか大きな課題である。

九条

【展開】

収束の見えないコロナ禍で、行事や取り組みを行う上で様々な制限が加わってきます。その中で信徒の皆さんの命を守りながら一人でも多くの信徒が信仰の喜びを実感できるような時間になれるように、行事等の抜本的な見直しによるシステムづくりや、人員体制見直しを考えていきます。その一環として外国信徒の皆さんとの更なる連携も考えていきます。

①新型コロナウイルス感染の影響の中でも、貧しい人・弱者・病者に寄りそい、かけがえのない「いのち」を賜物として守る

【評価】 公開ミサ時の感染症対策やコミュニケーションは工夫を進めて充実して来ました。  
しかしながらミサや集会の休止時の取り組みへの検討は不十分でした。

②子どもたち及び青少年の育成支援を強化

【評価】 コロナ禍の中で取り組みは不十分でした。

③社会に奉仕する教会共同体

【評価】 各々の平和への祈りなどは出来ていましたが、小教区共同体としての取り組みは不十分で工夫が足りませんでした。

**西院** 【目標】

子どもたち及び青少年の育成支援を強化  
教会に来る子どもたちのために日曜学校を実施します。  
必要に応じて共同開催も実施します。

【報告・結果】 □

日曜学校は、ミサ休止で教会にて集まれない中でもオンラインで毎週実施中。  
ミサがあるときは、中高生・青年も日曜学校にかかわっている。

**長岡** ①新型コロナウイルス感染の影響の中で、全ての「いのち」をかけがえのない賜物として守る

【評価・反省】

- ・感染予防は、基本的予防は勿論、環境面では、ミサに与る人数制限を行わざるを得なかったため、ご聖堂に加え、2階にも映像を通じて与えるように工夫した。
- ・連絡網は特にメールの見直しを行い、ミサ休止・再開やその他の連絡にもメールを活用し情報を早く出すように心掛けた。FBページでの情報発信を更に充実させた。外国人信徒の方にも、LINEを活用し連絡を迅速に行い、近況についても尋ねるように心掛けた。ミサが再開された際の外国人信徒には、ミサ後には、短時間でも近況を確認できる機会を作った。
- ・病床訪問は、特に施設入所の方には感染防止の観点から面会が制限されたため、直接お会いできなくても、復活祭、クリスマスにお花・カードを持参し施設職員の方へお願いする形でお渡しした。

②子どもたち及び青少年の育成支援を強化

【評価・反省】

- ・コロナ禍でブロックの行事も無く、また長岡では日曜学校の対象者が居なくなったため、活動がほぼ休止状態が続いています。ただ、京都南部地区の合同堅信式が中止になったものの、ブロック担当司祭が夏休みなどを使って調整していただいたので、長岡教会の堅信対象者3名全員が、クラブ活動や寮生活者も準備が可能となり、長岡単独での式を行っていただくことができました。
- ・青年への連絡はできる限り連絡網等を活用したものの、一方通行で終わっています。

③社会に奉仕する教会共同体

### 【評価・反省】

・あらゆる活動が休止になったので、上記の計画や地域社会との連携はほぼできなかったものの、定例への団体への寄付や物資の提供などは継続した。

・「出向いていくこと」自体が難しい状況もあったが、会えないことでモチベーションの低下も感じた。

・トピックス:教会創立55周年(1966年9月25日創立)を迎え9月26日に感謝ミサ、共同祈願の作成、お祝看板・ポスター掲示、クッキーと記念カード配付、過去55年の集合写真掲示を行った。

**丹波** ウイズコロナの変化の中での「いのちのつながり」の大切さを再確認し、変化に対応すべく取り組み、実行していきます。

① 外国からの地域滞在信徒との信仰疎通をより深め、キリスト者以外の外国人地域滞在者とのつながりも広げていきます。

【振り返り】 現在「ホアマイ会」の方々が信仰疎通を深めております。が、コロナ禍の現状で、キリスト者以外の外国人とのつながりは出来ておりません。

② 集まりづらい共同体が、集まらなくても霊的な一致を得るための「祈りの場」を実現します。

【振り返り】 信徒全員に、丹波教会評議員一同より、案内文と二つの祈り「聖ヨセフの祈り（フランシスコ教皇）」・「すべてのいのちを守るためのキリスト者の祈り」を周知し郵送、同じ時間・同じ祈りを、心一つにして霊的一致のため、祈る広場を持ちました。

③ 「ヨセフ年」を受けて、学び、取り組み、実行します。

【振り返り】 教皇フランシスコ・使徒的書簡「父の心で」の冊子を希望者に教会から贈呈し、熟読して頂き、分かち合いを寄稿という形にして、皆様からの聖ヨセフへの学び、感想、気づきを寄稿して頂きました。その結果を寄稿文集としてまとめ、冊子を作成し寄稿者や、寄稿者以外の日頃ミサに参加されている信徒の方々にも配布しそのつながりを持ち合いました。

# 2021年度三重北部ブロック宣教司牧計画 実施計画

2021年2月23日

教区 優先課題	京都教区は、21世紀を迎え、次の5つを宣教の優先課題として取り組みます。 1.共同宣教司牧を推進して、果敢に福音宣教する教会共同体になっていきます。 2.滞日外国人の人々と連帯し、多国籍の教会共同体を作ります。 3.青少年の育成に力を入れます。 4.信徒の生涯養成と、信徒の奉仕職を充実させていきます。 5.「社会と共に歩む教会」として、社会の弱者と連帯し、社会の正義と平和の問題に取り組みます。		
長期計画 2018年～	①司祭誕生を目指し、小・中学生への信仰教育を充実する。 ②教会活動、青年部活動の活性化、中・高校生の教会活動への参加の強化策を策定。 ・教会活動に参加する人数を増やし、信徒全員が「一人一役」として係わる共同体作り。 ・多文化、国際協力、社会活動貢献。 ・青年部活動の発展		
	短期計画(ブロック)	担当	実施状況
長期計画 ①	短期計画① 侍者研修会 4月24日(土)～25日(日) 侍者研修会に向けて、司牧者チームで動作について確認する。	司牧者チーム 教育部 典礼部	中止
	短期計画② サマーキャンプ 7月25日(日)～27日(火)に実施する。	北部ブロック教師会	中止
	短期計画③ 三重地区合同堅信式 7月4日(日)四日市教会での三重地区合同堅信式の企画と未受堅者に堅信を受けるよう呼び掛け、準備の勉強を実施する。	四日市教会 司牧者 各教育部	中止
	短期計画④ ブロック交流会 青年、外国人信徒、日本人信徒の活動できる機会を増やせるように準備する。	桑名教会	中止
長期計画 ②	短期計画⑤ 勉強会 各教会で実施している聖書等の勉強会をお互いに知らせ合い、勉強会に参加できる機会を増やす。	役員 司牧者チーム	中止
	短期計画⑥ 黙想会 各教会で実施する黙想会をお互いに知らせ合い、参加できる機会を増やす。	役員 司牧者チーム	中止

## 各小教区 2021年の主な実施事項 (2021年11月14日追記)

ブロック行事がすべて中止のため各教会は独自の行事を実施した。

### \* 鈴鹿教会

- ・評議会 3月、10月、11月
- ・復活祭：卵型チョコの配布
- ・ルルド聖母マリア様への祈り、ペットボトル水の祝別と配布：2月、5月、8月
- ・マリア様への各国の祈りの集い (5月フィリピン、8月ベトナム、10月南米)
- ・敬老の日：手紙とミニロザリオを75歳以上の方に送った (24名)

### \* 四日市教会

- ・評議会：1月、2月、3月、5月、6月、9月、11月
- ・新成人祝福
- ・新型コロナ対応策：パネル、Webカメラ、アンケート、検温、消毒用ディスペンサーの設置等
- ・メール配信用アドレス登録開始
- ・神父様より敬老祝いのメッセージとヨセフ様のご絵を贈る (129名)
- ・不定期で3～4名にて教会外の草抜き、清掃実施

### \* 桑名教会

- ・評議会：毎月開催
- ・一斉メール送信リスト整備と連絡網の見直し
- ・「葬儀のしおり」を作成
- ・信徒による給排水路修復工事
- ・教会経費の見直し
  - 電話通信費の契約確認と契約見直し検討
  - 電気料金契約変更 (11月より)
 Loopでんきへの変更により、約18% (年間約10万円) の経費節減可。
- ・ミサ参加者の記録：個人カード発行 (日本人約185枚、外国人約280枚)
- ・信徒情報の電子化の準備を検討

## 2021 年京都教区 三重地区南部ブロック長期・短期計画

### I 南部ブロック長期計画（目標）2018 年～2023 年

1. キリスト者として、日々の生活に喜びを持って地域社会に証ししよう。
2. 多文化共生共同体を作ろう。
3. 子ども達の信仰教育に努めよう。
4. 信仰を深める為の生涯教育に努めよう。

### II 南部ブロック短期計画

#### 1. 地域社会への証し

- (1) ウォーカーソン三重 中止  
三重ダルクへの支援（夏、冬のバザーの支援先とする、お弁当を注文）
- (2) 平和旬間事業 8 月 各小教区で企画
- (3) 教会のホールを地域活動のため使用してもらう。

#### 2. 多文化共生共同体

- (1) 滞日外国人と活動の交流を分かち合う。
- (2) 滞日外国人との交流ミサを実施 国際ファミリーデー 中止

#### 3. 子ども達の信仰教育

- (1) 堅信式 7 月 4 日 津教会、7 月 11 日 上野教会 2 か所に分散して  
堅信の勉強会として「ZOOM で集まろう！」を 3 月より開始。  
堅信後も、継続して月 1 回交流の場を持ち勉強会、福音宣教の話などの分かち合いを実施
- (2) 小学生サマーキャンプ 中止
- (3) 教会学校担当者研修会(教区)への参加
- (4) 教会学校担当者黙想会 11 月 21 日 ZOOM にて開催

#### 4. 信仰を深める生涯教育

- (1) 典礼聖歌・答唱詩編の研修会（月 1 回）
- (2) ZOOM で月 1 回ブロック懇話会を実施し各教会との交流、分かち合いを行った。
- (3) 黙想会（各小教区で）